



長崎県の五島列島は、つばき油が地域の特産品となっており、その原料となるヤブツバキ (Camellia japonica) 以後ツバキというの種子は、年度間の豊凶が激しく、また、複数年単位で見ると、数年続く豊作期と凶作期があります。

表 開花時期の違いと結実率 (%)

	4月17日	5月1日	6月10日	
開花時期	1月17日以前	10.0	10.0	8.8
	1月17日	8.8	6.3	6.3
	2月12日	6.3	2.5	1.3
	2月27日	13.8	5.0	3.8
	3月5日	4.0	1.3	1.3

つばき油を安定的に生産するためには、毎年の種子確保が不可欠です。しかしながら、ツバキの開花・結実のメカニズムについてはこれまで、ほとんど解明されていませんでした。そこで、ツバキの開花・効果形成の時期別に生理落果と結実について

ヤブツバキの種子

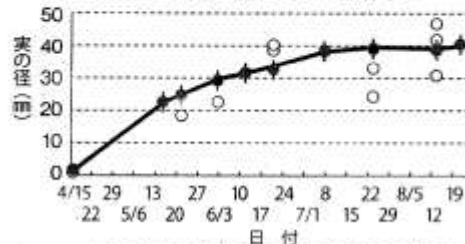
1～3月開花で結実 生理落果4、5月多い

の調査を行いました。その結果、1～3月のいずれの開花時期でも結実することが分かりました。また、ツバキ実の肥大は4月中旬から始まり、7月中旬まで続きます。生理落果は新芽が伸びる4、5月にかけて多く、その後も8

月まで少しずつ見られます。この他、結実数の多い木では新芽が伸びる時期が遅くなる現象が確認されています。また、樹勢の強いツバキは結実が悪いという報告もあり、これは樹体の成長に養分が取られ、養分バランスが崩れるため、生理落果が多いのではないかと考えられています。今後は、剪定(せんてい)と新芽切りにより樹勢をコントロールさせることで生理落果を抑える方法についても検討したいと思います。

(県農林技術開発センター・田嶋幸一)

図 ツバキ実の肥大と生理落果



※○が生理落果 (その調査日まで確認できたもの)